

ホットニュース Hot News

◎講座「英語多読の世界へ OFF WE GO!」

英語多読とは、文字通り英語の文章を簡単なものから少しずつ文字数を増やしてたくさん読んでいき、自然に英語力をつける方法です。図書館には英語多読に使える、面白くて続きが読みたくなるような本が多くあります。CD付きの本もあるので、耳から楽しむこともできます。まずは講座に参加して、無料で英語力をUPしてみませんか？

- 日時:7月23日(土)午後1時30分～4時
- 場所:田原文化会館201会議室
- 申し込み:図書館に直接、または電話、Eメールにて(Eメールの場合は、件名に「英語多読」、本文に「氏名・電話番号」を明記)



▲多読本・多読コーナーとイベントの様子

オスナの本



カナダの謎 なぜ「赤毛のアン」はロブスターを食べないのか?
 平間俊行/著 日経ナショナルジオグラフィック社
 赤毛のアンがロブスターを食べなかった理由とは？旅行本とは違った切り口で、カナダの魅力を伝えてくれます。



新冒険手帳
 かざまりんべい/著 主婦と生活社
 何が起こるか分からない今の時代、ジャングルでも砂漠でも大災害でも、あり合わせの物で身を守る術がこの1冊に！

History Inquiry Club 其の号外

歴史探訪クラブ

文化財課(博物館) ☎22-1720
 吉胡貝塚資料館 ☎22-8060
 渥美郷土資料館 ☎33-1127

博物館HP 博物館Instagram

館蔵 屏風展～学芸員おすすめ作品～

屏風は平安時代ごろには部屋を区切る用途に使われていましたが、安土桃山時代ごろには、そこに描かれる壮大な絵によって時の権力者の威厳を示すためにも使われてきました。

7月9日(土)から開催する「館蔵 屏風展」では、田原市博物館所蔵の屏風を展示します。

今回一推しの作品は、渡辺華山が描いた屏風『商山四皓』です。『商山四皓』とは、中国の秦時代末期から漢時代初めに、混乱した世を避けるために商山という山に隠れ住んだ眉や髭が白い4人の老人(この4人が四皓と呼ばれています)を描いた作品です。

四皓は高名な人物であったことから、漢の皇帝・劉邦は自分の元に仕えてほしいと望みましたが、彼らはその要請を断っていました。

やがて劉邦は一旦は長男を皇太子に据えますが、その後気に入らなくなり皇太子を廃位しようとします。これを憂いた皇太子の母呂后は、四皓が皇太子に仕

えれば劉邦が思い直してくれるのではと考え、使いの者に四皓を訪ねさせました。屏風に描かれているのは、この場面です。その後、四皓は皇太子に仕え、それを見た劉邦も皇太子の廃位を考え直すことになりました。

この作品は、元々掛川城(静岡県掛川市)の小襖絵であったと伝わるもので、大きくはありませんが緻密な表現に圧倒される作品で、田原市指定文化財にもなっています。

「館蔵 屏風展」は8月21日(日)まで開催します。迫力ある屏風の数々を、ぜひこの機会にご覧ください。(学芸員 鈴木まりな)



▲田原市指定文化財 渡辺華山筆 商山四皓(天保期)